

①重点目標	a 確かな学力定着のための授業の充実 【学習】【各教科】		b 自主的な学習態度の育成 【学習】【各学年】	
②重点課題	1 授業力向上への組織的取り組みと学力各層への指導の充実		2 自主的な学習計画の作成と自学自習時間の確保	
③現状	・学力の多層化が顕著である。 ・常に授業研究・振り返りを行い、授業の充実が必須である。 ・授業力向上についての話し合いを、研究授業や授業公開期間以外にも多く行う必要がある。		・自学自習時間の確保が充分にできず、学習事項が定着していない生徒が少なからずいる。 ・授業態度はおおむね良好であるが、先を見据えて自ら必要なことを考え、計画・実行していける生徒は多くはない。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①授業および講座を充実させること等により、学力上位層をさらに伸ばす。	B	①生徒個人面談による適切な把握と指導を通して、生徒にスケジュール管理を促す。	B
	②これまでの経験を振り返り、それぞれの学力層における学力向上のための取組を日々継続していく。	B	②「自学自習の手引き」「シラバス」及び授業と定期テストとの有機的なつながりを強化し、学習の質と量を確保させる。	B
	③ICTの活用や、授業公開・授業研究等の機会を通して、授業改善に努める。	A	③自学自習時間の目標（平日「学年＋2」時間、休日「学年＋5」時間）達成率80％以上。	C
⑤具体的な取り組み	①土曜講座・平日講座（3年）・上位者講座を開設し、学年・教科で連携して学力各層に効果的な指導を行う。 ②学力差に対応した学習意欲を高める授業方法や教材開発について、教科内や教科間で研究・実践を重ね共有を図る。 ②下位層については、情報を学年・教科で共有し、教科担任による面談や個別指導を行うなど、早期から丁寧に対応する。 ③「主体的・対話的で深い学び」による授業の充実に努め、学習に対する内発的動機付けを高め、知的好奇心を刺激する。 ③県の新規事業により導入されるICTの活用や、公開授業の活性化に向けた取組等を通して授業改善を行う。 ③教科主任会議の活用等によりSSH事業の「授業カリキュラム開発」における、分野融合、教科横断、主体的で協働的な学びを実現する授業方法の研究に組織的・積極的に取組む。		①生徒が学習しやすい環境を構築し、個々の生徒に応じた学習の仕方や自主的に学習しやすい時間帯（朝・放課後）および場所（教室・学成寮・図書館等）を提案し、学習習慣を確立させる。 ①生徒にスケジュール管理を促し、学習時間・内容等のチェックをこまめに行うとともに、必要に応じて面談等で軌道修正を図る。 ②定期的に「自学自習の手引き」や「シラバス」を活用することにより現在の自分の学習法を振り返らせ、学習の質と量をアップさせる。 ②授業や定期テストにおいても上位層の意欲をかき立てるような内容や出題を工夫する。 ③自律的な学習集団育成のため、「入口指導」や各学期、行事等の節目における学年集会等で学習意欲を喚起し、きめ細かな取組を行う。 ③左の②重点課題1に向けた取組を通して、授業の充実による自学自習時間の増加を目指す。	
⑥評価 *栃高評価満足度％ は1 そう思う+2 大体 そう思う の割合を表 し、()は 5 わから ないの割合表す < >…昨年度データ	①授業アンケートによる授業の満足度は、90％以上の科目が全41科目中24科目、80％以上の科目が13科目であったが、最上位層を増やす取組の蓄積・共有が課題である。 ①栃高評価⑤（習熟度別授業〔数学〕）では、生徒86％(3)〈81(4)〉であり、学力各層に応じた指導ができた。 ②下位層についての情報を学年主任会議や教科主任会議で共有し、学期末の指導では学力層別に丁寧に指導できた。 ③「授業づくり」に関する現職教育を実施し、育成したい資質能力を踏まえた観点別評価に向けて着手できた。 ③一斉休校時の「学びの保証」以外の場面でも、多くの教員が動画配信やICTを活用し、さらには授業研究会も行った。		①栃高評価①（面談による学習アドバイス）では、生徒94％(2)〈90(2)〉と、担任や教科担当者による数多くのきめ細かい面談を実施できた。 ①栃高評価⑨（学習環境の施設・設備）では、生徒85％(2)〈82(2)〉と、残留学習などの学習環境を有効活用していると考えられる。 ②定期テスト問題を教科を超えて共有するシステムを構築することで教員の意識が高まった。また、新傾向や上位層向けの出題など十分検討された試験問題も目立った。 ③学校再開後の節目指導においては、各学年とも個別指導と全体指導を組み合わせ、適切に行うことができた。 ③第2回学習実態調査における平日の自学自習時間の達成率は、1年24％、2年11％、3年29％と低く、生徒間の格差も大きい。	
⑦学校関係者 評価	・授業力向上のため授業の効果の自己診断をすべきである。 ・動画配信を自学自習等にも活用できるように継続して欲しい。		・生徒の知的好奇心を刺激し自学自習の時間増に繋げて欲しい。 ・面談によるアドバイスは満足度が高く本校の誇れる点である。	
⑧次年度への 課題	・授業改善、新教育課程、観点別評価の研究を継続する。 ・1人で授業ができるレベルまで、ICTスキルを向上させる。		学習時間が確保できるように今後も様々な取り組みを行い、粘り強く生徒に働きかけ、生徒同士が刺激し合える環境の構築を目指す。	

①重点目標	c 進路希望実現のための効果的な進路指導の実現		【進路】【各教科】【各学年】	
②重点課題	3 三年間を見通した進路指導計画の実践とノウハウの継承		4 模試データ分析の効果的な活用と適切な進路情報の提供	
③現状	- 全体計画を進路指導部で作成し、進路講演会や学問探究講義、卒業生との懇談会等を実施し、キャリア教育を推進するとともに、内発的動機、学習意欲の向上を目指している。 - 生徒への個別対応が重要性を増しており、時宜を得た効果的な生徒個人面談を実施するために、三年間を見通した面談の内容について共通理解を図る必要がある。		- 校内模試データによる校内ランキングの見直しや、進路指導委員会に向けての事前検討会を充実させることにより、進路指導部と担任間、および担任と生徒間の進路に関する具体的な情報のやりとりをさらに充実させる必要がある。 - 進路学習室や大掲示板の環境整備や、進路委員の活動を通して、1，2年生に対する情報提供もさらに充実させる必要がある。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①土曜講座の実施形態の工夫、内容の充実とともに、保護者への内容の周知を図る。	B	①校内模試による校内ランキングの見直し、各種研究会等の適切な情報提供を通して、進路指導委員会を充実させる。	B
	②講演会等の進路関係行事や、時機に応じた生徒個人面談の内容充実により、進路意識・学習意欲の向上を図る。	A	②1，2年次の進路検討会を実施し、志望校等についての情報の共有を図り、低学年から進路情報の提供を充実させる。	B
	③三年間を見通した進路指導のノウハウ継承を図り、特に上位層への低学年からの働きかけを強化する。	B	③「高大接続改革」に関して、新入試改革への対策、その効果的取組が学校全体で着実に進められるよう努める。	B
⑤具体的な取り組み	①生徒の学力向上のために、土曜講座の実施形態（全員講座と希望講座、層別指導の組み合わせ等）を工夫し、実態とニーズに合わせて計画・実施し、充実したものにするとともに、その内容について外部へも発信していく。 ②これまでの蓄積（各学年の LHR 資料、学年独自の進路関係行事の実施記録、長期休業前指導の資料、各資料や行事の意義を明文化した資料等）を活用し、LHR 以外にも積極的に進路学習の機会を設定できるようにする。 ②多くの教員との面談を通して自己理解を深めるとともに、キャリア教育の各種取組により進路意識を高揚させ、学習意欲の向上につなげていく。 ③三年間を見通した進路指導計画を教員と生徒が共有する場を多く設定し、生徒に対し有効な働きかけを積極的に行う。		①校内ランキングの見直しを丁寧に行うとともに、事前検討会を充実させ、収集した情報を、チューター制度を活用し生徒の進路希望の実現と教職員の研修に生かしていく。 ①個別大学模試の分析や追跡調査、業者の分析報告会の情報を共有しそれをもとに生徒の進路希望実現に向けた指導を行う。 ②クラス担任からの入試制度等の進路情報の伝達や、進路学習室・大掲示板の活用や各クラス進路委員の活動を通しての恒常的な情報発信など、情報提供環境を充実させる。 ②低学年からの進路情報提供の一環として「大学入試問題研究」を充実させ分析結果を校内実力テスト・校内模試の作問につなげることで、上位層の指導に活かす。 ③「高大接続改革」に関して全職員で情報を共有し、各学年の取組に対し、学校全体での支援が行えるようにする。	
⑥評価 *栃高評価満足度 %は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、()は5わからないの割合を表す く >・・・昨年度データ	①栃高評価②（土曜講座の充実） 生徒 85 % (3) 〈76(3)〉 保護者 75 % (21) 〈65(27)〉 全員講座をニーズに合わせてさらに充実させることが課題である。外部への情報発信については昨年より改善した。 ②栃高評価④（3年間を見通した進路指導）では、生徒 90 % (3) 〈87(3)〉と毎年割合が高い。特に1年生が高かった (96 % (2))。面談週間以外にも時宜を得た個人面談が多く行われている。 ③県の学力向上事業も活用しながら、学年による定期的な分析や改善策の立案などの議論を通して、三年間を見通す機会を多く持つことができた。		①進路指導委員会では個々の生徒に応じた「ぶれさせない」指導や助言をさらに充実させる必要がある。 ②栃高評価⑥（進路に関する情報提供）では、生徒 92 % (2) 〈87(2)〉と、年々安定してきており、進路情報等の提供は充実してきている。 ②1，2年次の進路検討会は、志望校の検討や、クラス分けの情報共有など効果をあげている。「ぶれさせない」指導にもつなげたい。 ②「大学入試問題研究」は内容を充実させることができ、頁数も大幅に増加した。 ③高大接続改革についての最新情報の収集と共有を継続している。	
⑦学校関係者評価	- 土曜講座の効果を生徒が感じていることが数値に現れている。 1年生は3年間を見通した良いスタートが切れたと思われる。		入試制度の変更等により先読みの難しい状況下であるが、生徒・保護者に的確な情報提供がなされている。	
⑧次年度への課題	- 習熟度別の開講などにより全員講座を充実させる。 - LHR 以外の場面でも進路指導の時間確保に向け工夫する。		- 進路指導委員会の準備を通して生徒把握力や面談力を高める。 「高大接続改革」への対策を学校全体で着実に進める。	

①重点目標	d 主体的な学習活動による健全な教養の醸成 【図書館】	e 健康的な生活のための生活習慣の確立 【保健厚生】
②重点課題	5 図書館利用の質的な向上をめざした支援体制の整備	6 生涯を通じて心身共に健康な生活を送るための健康管理能力の育成
③現状	- 平成 26 年度には年間貸し出し数 5,000 冊越えの記録を達成したが、読書の質の向上へと重点をシフトし、平成 30 年度は 2,181 冊、令和元年度は 1,288 冊であった。 - 図書委員会を中心に、ビブリオバトル連続入賞、読書会の開催、図書館だよりの発行等、読書推進活動も盛んである。 - 情報センターとしての新たな使命をふまえ、論文検索用端末が令和元年度末に新規導入された。	- 昨年度末から学校休業となり、自宅での生活が続き日々の活動量が減少している。今後も休業の延長や、部活動の休止が続くと体力の低下のみならず、心の健康も心配である。 - 感染症の拡大防止や健康的な生活習慣に関する様々な情報について、生徒が正しく理解できていなかったり、インターネット等からの情報により意思決定・行動選択している場合もある。
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①情報センターとしての利用促進と支援体制整備。 B ②栃高ホームページ上の「図書館」ページの充実。 A ③年間貸し出し数 2,200 冊以上。 C	①週 2 日以上運動を実践する生徒数 80 %。 A ②「保健だより」等を通して、新型コロナウイルス感染症予防の徹底に関する情報を発信し、健康的な生活習慣の理解と実践。 A
⑤具体的な取り組み	① SSH 部との連携により、論文検索・複写システムを整備するとともに、より自由で柔軟な資料検索システムの整備に着手する。 ①学習指導部との連携により、教材閲覧コーナーを新設・整備する。 ③教科指導との連携、図書委員会活動の充実、「としょあんない」等の印刷物、ホームページ、イベント、展示方法の工夫等を組み合わせ、利用者の読書の質の向上を図る。	①正しい運動の方法や個人の体力に応じた運動について、体育授業を通じて指導したり、部活動や体育的行事等で運動の楽しさやその効果を実感させ、運動の習慣化の大切さについて理解させる。 ②感染症の拡大防止や健康的な生活習慣について、教科での指導とともに「保健だより」を活用し、国や地域での感染状況に応じてより効果的な情報を提供し、感染症の予防だけでなく、運動・栄養・休養について正しい意思決定・行動選択ができるよう指導する。
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大 そう思う の割合を表 し、 () は 5 わからない の割合を表す < >・・・昨年度データ	①論文検索・複写システムの運用を開始することができた。 ①教材閲覧コーナーを整備した。栃高評価⑦（自ら学ぶための支援）の生徒 90 % (1) 〈89(2)〉の数字にもつながった。 ②栃高ホームページ上の「図書館」ページに「図書館の概要」コーナーを新設した。また全国に先駆けいち早く新型コロナ対策方針を公開した。 ③年間貸出数 890 冊で昨年の 1926 冊から 54 %減となった。学校再開後も生徒の意識は学習の遅れ回復に向かいがちだったが「旧帝大のベストセラー」紹介で質の向上を図った。 ③県の「高校生読書コンシェルジュ」事業に図書委員が初参加し成果をあげた。栃女高との交流会も文集発行に形を変えて継続できた。	①栃高評価⑧（健康的な生活を送るための指導）生徒 83 % (2) 〈74(4)〉 保護者 88 % (6) 〈86(7)〉 ①運動実施状況（週 2 日以上運動する生徒）は、1 年 75 %（全国比－1 %）、2 年 73 %（± 0 %）、3 年 51 %（－ 15 %）、全体では 66.8 %（－ 6 %）で、1・2 年生はほぼ全国平均と同じだったが、3 年生は部活動を引退した後の調査だったため全国の実施率より低かった。また、休校期間中に自主的な運動を継続していた生徒も多かった。 ②新型コロナウイルス感染症についての正しい理解と素早い対策の決定や分かりやすい指導を念頭に対応できた。保健委員の協力や養護教諭の工夫によって、「保健だより」でも適切な情報を提供することができた。
⑦学校関係者 評価	- 生徒の意識に訴える取組がなされている。 - 論文検索システムの整備・運用を引き続き進めて欲しい。	- 集団生活の活動拠点として正しい健康意識の定着を推進して欲しい。 「保健だより」は生徒にわかりやすい内容で効果をあげている。
⑧次年度への 課題	- 検索システムの本格稼働により探究活動を促進する。 「高校生読書コンシェルジュ」事業、栃女高との伝統の交流は、来年度も工夫して継続させたい。	- 体育の授業等を通じて自ら運動することの重要性を指導する。 - 新型コロナウイルスの感染拡大状況を常に注視して、教職員・生徒が正しい対応を共有できるよう指導を継続する。

①重点目標	f 特別活動の充実と生徒の積極的な参加への指導		【特別活動】	
②重点課題	7 全生徒で計画的に取り組む充実した学校祭の企画と実施		8 学校行事，部活動，体験活動に全力的に取り組むための環境整備	
③現状	- 生徒が組織する学校祭実行委員会と各クラスの文化委員が中心になり，全員参加による学校祭を企画している。 - 昨年は 3,000 名超の来場者数を維持できた。地域や保護者から一定の評価を得ている結果であると推察できる。 - 今後は，更なる質の向上を目指していく取組が必要になるものと思われる。 - 実行委員，文化委員，関係職員の三者間の連携が不十分で，改善の余地がある。		- 部活動加入率も高く，移動教室，外国人との交歓会，ボストン海外研修，県庁堀清掃ボランティア，生徒会リーダー研修会といった多くの行事や体験活動に積極的である。県庁堀清掃では，栃木市役所との協力関係を構築し，実施体制が確立されている。 - 文武両道を掲げ多くの生徒が学校生活を送っているが，進路実現のための学習時間の確保と，部活動や生徒会活動等の様々な活動を両立していく難しさもある。 - 移動教室では，リーダーシップの育成に課題が残った。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①クラス企画における質の向上に向けた実行委員会と文化委員及び関係職員との連携を強化する。	A	①年間を通して部活動加入率 80 %を維持する。	A
	②参加者の満足度 80 %を達成する。	A	②移動教室，ボストン海外研修において，リーダーシップ・フォロワーシップの育成を図れるよう質的向上を目指す。	B
⑤具体的な取り組み	①実行委員会を定例化し，生徒会係職員を中心として，職員と実行委員，文化委員の連携を強化する。 ①クラス企画が準備段階から計画的に取組めるよう文化委員と実行委員との連携を密にするとともに，文化委員と担任との関わりを充実させる。 ②栃高ホームページを活用し，生徒の活動状況の情報発信に努める。 ②参加者にアンケートを実施し，満足度を調査するとともに，改善意見を募り，次年度へ引き継ぐ。		①特別活動全般において，その意義を各クラスにおいて指導し，事前指導・研修の機会を設け，参加生徒がそれぞれ課題意識を明確にして活動に臨めるようにする。 ①年度初めの部活動加入率の調査と，中間及び年度末の時点での退部状況の調査を実施するとともに退部者の実態把握に努める。 ①部活動と学業の両立支援の通知を配付し，生徒や保護者に周知するとともに，部活動優先日（金曜日）を徹底する。 ②移動教室やボストン海外研修においては，リーダーシップ・フォロワーシップを育成できるように活動内容を精査して改善に努める。	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体 そう思う の割合を表 し，()は 5 わから ないの割合表す < >…昨年度データ	①生徒会担当教員の指導により，実行委員会，文化委員，関係職員の間で，連携が強化された。 ②栃高評価⑩（学校祭の内容充実） 生徒 93 % (2)<93 (2)> 保護者 85 (12) %<95 (3)> 今年度は校内公開のみで参加者は生徒だけであったが，生徒の満足度は昨年と同じ数字となった。		①部活動加入率は，1 学期当初が 82.4 %，2 学期末では 82.0 %であり，80 %以上を維持することができた。 ②移動教室・ボストン研修は新型コロナウイルスの影響で中止となった。ボストン研修の代替として高校文化連盟英語部会のディベートに参加し，国際理解の分野で一定の成果をあげることができた。リーダー研修会では、例年の宿泊を伴う内容を日帰りに変更して行い、リーダーシップ育成の点で成果をあげることができた。	
⑦学校関係者評価	いかなる状況下にあっても意欲的に取り組めたことや，様々な工夫により栃高祭を実施できたことは素晴らしい。		今後も制限の多い状況が続くが，学校ならではの活動や取組を，生徒自ら工夫し実行できる環境を提供してもらいたい。	
⑧次年度への課題	- 次年度も PR 活動を工夫して行う。 - 感染症対策を適切に講じ参加者を拡大できる体制を整える。 - 外部からの参加者の満足度をはかるアンケート内容の検討を行い，80 %以上の評価を目指す。		- 移動教室等において参加者全員のリーダーシップおよびフォロワーシップの育成が行えるような指導内容を検討する。 - 部活動，移動教室，ボストン研修等を通して，集団生活における主体性や自主性を高める指導を行う。	

①重点目標	g 規範意識と社会性の向上		【生徒指導】	
②重点課題	9 社会生活における法の遵守とマナーの向上		10 校内生活における規範意識の向上と望ましい人間関係の構築	
③現状	- 各教科やホームルーム、学校行事等において、生徒自身が安全な交通社会の主体となる指導を実践している。 - 学校生活において生徒心得等諸規定を遵守する態度を育成し、そのことが社会のルールを守る態度の育成や品位ある言動につながることを理解させ生徒指導を実践している。		- 生徒一人ひとりに存在感や達成感を与えると共に思いやりの心や規範意識を高め、豊かな人間性や社会性を育てる指導を実践している。 - 規範意識の向上や生徒心得遵守に関する指導については全職員の共通理解に基づき、その時、その場での指導を実践している。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成 C：達成できなかった。	①交通事故発生ゼロを目指す。	B	①いじめ解消100%を目指すし、早期に認知し早期に解決する。	B
	②登下校時の苦情がなくなることを目指す。	A	②携帯電話等使用規定の違反生徒数昨年比50%減を目指す。	C
	③遅刻生徒数昨年比50%減を目指す。	B	③教育相談的な支援が必要な生徒の早期発見と早期対応に努める。	A
⑤具体的な取り組み	①交通事故防止については、生徒自身が、被害者及び加害者にもならないことを目指し、保健の授業や交通安全講話、ホームルームでの注意喚起など、教育活動全体を通して指導する。 ②教職員、生徒会交通委員やPTAが街頭指導等を含む交通指導を行い、他の模範となるような行動を目指させる。 ③登校時における時間的な余裕が持てるような生活習慣の見直しについて学校と家庭で連携して指導するとともに、随時立哨指導を実施する。		①生徒同士がお互いの特性を認め合い好ましい人間関係を築き、いじめが起こりにくい集団づくりの指導をする。 ②携帯電話等使用規定をはじめとする校内規定の遵守については、内面的な自覚を促し、自主的にマナー向上に努めるように指導する。 ③定期的に学年主任、各部長間で不適応傾向の生徒について情報交換を行い、職員間での情報共有と迅速な対応に努め、必要に応じてカウンセリングを有効に活用する。 ③「生活アンケート」や「QUテスト」の実施とその結果の効果的な活用により、いじめや学級集団の状況把握に努める。	
⑥評価 *栃高評価満足度%は1 と思う+2 大体 と思う の割合を表し、()は 5 わからないの割合表す < >・・・昨年度データ	①交通事故発生3件(昨年度比-3件) 登校中の事故であり、早めに家を出ること及び交通マナーの遵守について指導していく必要がある。 ①栃高評価⑫(交通ルールの遵守やマナーの向上) 生徒79%(4)<75(5)> 保護者80%(14)<86(14)> ②交通関係の通学マナーの苦情1件(昨年度比±0件) 職員・生徒による街頭指導を予定通り実施(年4回)した。またPTAとの合同の通学路指導を実施(年4回、うち1回は台風により中止)した。 ③遅刻者数は昨年度に比べて33%減となった。		①いじめ発生件数1件(昨年度比+1件) 残念ながら1件確認されたが、組織的に対応でき早期に解決することができた。 ②栃高評価⑬(生徒の規範意識を高めるための指導) 生徒80%(4)<81(4)> 保護者90%(4)<89(7)> ②栃高評価⑭(携帯電話等のルール遵守と情報モラルの向上) 生徒80%(3)<79(3)> 保護者89%(5)<91(4)> 携帯電話等規定違反8名指導(昨年度比+1件) 指導を受けた生徒がまだ多い。来年は0を目指し指導していきたい。 ③栃高評価⑨(悩み等の相談体制の整備) 生徒81%(6)<73(8)> 保護者81%(12)<77(16)> 生活アンケート、QUテストでは事後の検討会も実施した。また、個々の生徒に対するケース会議も多く実施した。	
⑦学校関係者評価	家庭と連携しながら、基本的生活習慣の確立や見直しに関する指導を継続して欲しい。		携帯電話の指導に関しては保護者からも感謝されており、今後も家庭と連携しながら、情報ツールの活用について指導を継続して欲しい。	
⑧次年度への課題	家をあと5分早く出る習慣の定着を図るとともに、基本的習慣の確立を指導し、登校中の交通事故が発生しないようにする。		- 携帯電話の使用及びマナーについての指導を強化するとともに、ネットトラブルの未然防止に努める。 - 教育相談のシステムを強化し、生徒の心のケアをしていく。	

①重点目標	h 環境教育への積極的な取り組み	【保健厚生】	i 広報活動の充実	【渉外】【教務】
②重点課題	1 1 ゴミ・資源問題への意識の向上と学校生活環境の改善		1 2 家庭・中学校・地域社会への積極的な広報活動の展開	
③現状	・教室内の清掃や教室周辺（特にロッカー上）の整頓について、時期やクラスによって不十分な場合がある。 ・可燃ゴミと不燃ゴミとの分別回収は概ね良好であるが、クラスによって故紙回収の意識に差が生じている。		・「PTA だより」を年2回発行 ・PTA 評議員会を年4回開催 ・PTA 総会、PTA 支部会、学年研修会において進路・学習・生徒指導等の取組や現状についての情報提供 ・管理職の中学校訪問とともに、中学校に案内文書を発送し、依頼のあった中学校を訪問し、生徒保護者に対し広報活動を実施している。 ・緊急一斉メールシステムの利用が定着し、緊急連絡にアクセスするための栃高ホームページの閲覧は減少している。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①教室内外の清掃を徹底するとともに、消毒・換気等、環境衛生の意識向上に努める。	A	①情報の共有を深めるための「PTA だより」の内容の充実を図る。	B
	②リサイクル活動を通してゴミの分別を推進し、故紙の回収量について月平均 1,000kg 以上を目指す。	B	②中学校の教職員、生徒、保護者を対象とした学校説明を目的とした中学校訪問数 20 校	A
			③栃高ホームページの掲載計画表を作成し、職員間で共有する。	B
⑤具体的な取り組み	①環境美化委員を中心に、定期テスト後に教室周辺の学習環境をチェックする。保健厚生部が中心となり校内の消毒や換気方法を検討し、生徒が自主的に行動できるよう指導する。 ②ゴミ分別と故紙回収を推進するため、分別等の表示や掲示を工夫するとともに、故紙回収箱の設置について年間を通して各教室に義務づける。		①「PTA だより」に校内の様子をより多く掲載できるよう検討する。 ②案内文書の送付に加え、電話等を活用し、生徒・保護者を対象とした栃高の説明を目的とした訪問の充実に努める。 ③新任教員を中心に栃高ホームページの更新方法の講習会を実施し、発信内容の充実を図るとともに、各部等の更新計画の作成に着手する。	
⑥評価	*栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体そう思う の割合を表し、() は 5 わからないの割合を表す < > ……昨年度データ ①生徒の清掃状況について、教室内は改善しているが、廊下やロッカーの上、階段などは不十分な箇所があった。消毒や換気については、コロナウイルス感染症の対策に関する教員の指導もあって適切に実施できた。 ②栃高評価⑮ （環境美化とゴミの減量化、リサイクル運動の推進） 生徒 64 % (5) <62 (7)> 保護者 67 % (23) <65 (24)> ②ゴミの分別については、可燃と不燃の分別についての意識は向上してきたが、故紙についてはまだまだ回収量が少なく月あたり 787kg（1 月まで）で昨年より微増であった。		①栃高評価⑰（家庭や地域社会への情報発信） 生徒 85 % (5) <78 (8)> 保護者 88 % (3) <86 (5)> 「PTA だより」の発行をはじめ、メールやホームページを通して保護者への情報発信や連絡に努めた。 ②一日体験学習の中止を受けて中学校からの訪問依頼は昨年度の 10 校から大幅に増え 28 校であった。外部会場での学校説明会も好評であり、中学生や保護者への情報の発信を行うことができた。昨年同様、管理職による中学校訪問も実施した。 ③栃高ホームページの掲載計画表を作成した。次年度初めに職員に配付する予定である。また今年度は職員に対し、HP 掲載の呼びかけを朝の打合せで行い情報の発信に努めた。	
⑦学校関係者評価	・分別等については生徒自らの解決・改善を促して欲しい。 ・生涯にわたって重要視すべき問題であることを伝えて欲しい。		・HP が保護者と学校を繋ぐ太いパイプとなっている。 ・HP のメニューを工夫するなどの改善の余地がある。	
⑧次年度への課題	・教室の換気や消毒等による感染予防を継続するとともに、環境を整え、安全に学習できる状態を維持する。 ・委員会等を活用し、故紙を回収することがゴミの減量化と再資源化につながることを理解させる。		・新型コロナウイルス感染症の対策を講じた上での PTA 行事の開催方法について検討を継続する。 ・ホームページ等を利用した広報活動を充実させるために、写真や映像等の使用に関するガイドラインの見直しを行う。	

①重点目標	j 国際社会で活躍できる有為な人材の育成	【SSH】
②重点課題	1 3 課題研究指導方法の確立	
③現状	- 生徒同士によるルーブリックを用いた議論を通じて、生徒の個人研究が進められている。また、「SSH 研究成果発表会」での全員発表が定着した。 - 課題研究の質的向上と、課題研究に対する教職員の働きかけの仕組み作りが課題である。	
④達成目標 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①課題研究のテーマ設定から研究計画書作成までの指導を充実させる。	B
	②より高度な課題研究の実施を促し、外部での発表件数の増加につなげる。	B
	③「SSH 研究成果発表会」における全員発表を継続し、発表の質的向上をはかる。	A
⑤具体的な取り組み	①テーマ設定に関する指導体制の充実や指導事項の配列見直し、成果物の提出時期等の分散といった改善を行う。 ②課題研究の質的向上に向けて、研究手法や結果の取り扱いに関する講座の充実と、計画書様式の改訂を行う。 ②ゼミ担当教員用のパフォーマンス評価ルーブリックの改訂を行い、生徒への関わり方を改善する。 ③各部・各教科とタイアップして、論文作成や発表技法の指導を改善する。 ③発表要旨の英訳を実施し、国際性育成の一助とする。	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体 そう思う の割合を表 し、 ()は 5 わからない の割合表す < >…昨年度データ	①一斉休業によるスタートの遅れはあったものの、昨年度の研究ポスターの各クラス配置や指導事項の見直しを行うなど新たな取り組みを行ってテーマ設定に対応した。 ②研究計画書の様式を改訂した。また、調べ学習との違いや結果の取り扱いに関する講座を設け質的向上を図った。個人研究の外部応募が2件あった。しかし、依然として研究の質が高まらない生徒も見受けられ、課題である。 ③図書館部・国語科・美術科と連携して課題研究関連技法の講座を実施した。また、発表テーマの英訳は全員実施した。国際性の向上に向けてマレーシアの高校との交流を開始した。	
⑦学校関係者 評価	- プログラムの更なる進化があり今後に期待したい。 - 調べ学習との違いを他の取組と連携しながら指導して欲しい。	
⑧次年度への 課題	- 研究発表の質的向上に向けて、テーマ設定に係る指導の充実を図るとともに、評価の観点の明確化を図る。 - 課題研究で身につけるべき科学的手法を把握しやすくするためにこれまでの取組をまとめたテキストを作成する。	